



広島西ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

No.
2192

例会日・木曜日 12:30~13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会長 森信 秀樹
幹事 謙訪 昭浩

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail : hwrc@godorc.gr.jp
作成・会報雑誌・広報委員会

広島西RC [検索]



「ロータリー財団月間」

2014年11月20日 第2168回例会
11月第3例会

◆ 会長時間 ◆

森信会長



皆さんこんにちは。早いもので今日は土砂災害が発生して3か月目です。

現場では応急対策の一方で砂防ダム建設など安全安心な街づくりへの取り組みが急ピッチで進められていますが、いまだ元の住まいに戻れない方が多数おられることに心を痛めています。

さて、本日は本年第二回目の百万ドルの食事(Million Dollars Meal)です。これは、例会で粗食の日を定め、それによって得られた節約額を積立て、これを社会奉仕、国際奉仕などの資金に繰り入れるもので、2ドル節約すると当時の50万人のロータリアン全部では100万ドルになるという所からこの名称ができたようです。

前回第一回目は、ロータリー財団の協力を得て、8月に発生した土砂災害への義援金として地区に寄付させていただきましたが、今回はロータリー財団のポリオプラスに寄付させていただきます。

さて、先週、謙訪バストガバナーから、「エボラ出血熱への対応に関するR I会長と理事会の声明」という資料をいただきましたので、本日はこれを少し紹介させていただきます。

まず、エボラ出血熱はウイルスによるものですが、初めてこのウイルスが発見されたのは1976年6月。スーダン（現：南スーダン）のヌザラ(Nzara)という町で、男性が急に39度の高熱と頭や腹部の痛みを感じて入院し、その後消化器や鼻から激しく出血して死亡したのが始まりです。その後、その男性の近くにいた2人も同様に発症して、それを発端に血液や医療器具を通して感染が広がりました。最近ではアメリカの医師が現地で感染し先日訃報が流れましたのは記憶に新しいと思います。この最初の男性の出身地付近である、当時のザイールのエボラ川からこのウイルスの名前はエボラウイルスと名づけられ、病気もエボラ出血熱と名づけられたのです。

出典：

<https://www.rotary.org/myrotary/ja/member-news/rotarys-response-ebola-outbreak>

● 会務報告

謙訪(昭浩)幹事

2014-15年度インターシティ・ミーティングのご案内をBOX配布しております。2015年2月14日(土)14時からホテルグランヴィア広島で開催されますので、理事役員及び入会3年未満会員は是非ご出席ください。また、今回も全員登録となっておりますので、多数ご出席をお願いします。

●委員会報告

※ プログラム・出席委員会

出席報告 柴田委員

本日(11月20日・木曜日)

会員数 76名 出席者 58名

欠席者 18名 ご来客 1名

ご来賓 0名 ゲスト 0名

計 59名

前々回(11月6日・木曜日)

出席率 88回連続100%



※ ロータリー情報委員会

古屋委員長

ポール・ハリスが考える寛容の精神とは

ロータリーの心と原点 廣畑 富雄 著より

ロータリーではよく「寛容の精神で」という表現を使います。

例えば地区大会の主催者がその挨拶で「行き届かないところがあるかもしれません、そこはロータリーの寛容の精神でご容赦ください」などと使われますが、ポール・ハリスが考える寛容の精神は随分違います。

寛容の精神について、ポール・ハリスは面白いことを述べています。国際ロータリーの雑誌第一号に彼は巻頭の論文を書いています。

その中で、広大なコロシアムの座席が、ロータリアンで埋め尽くされている。中央にポール・ハリスが立つ、そして何か一言ロータリアンの大衆に向かって叫んでほしいと言われれば、一瞬の躊躇もなく大声で「寛容」と叫ぶだろうと述べています。

「寛容」は彼にとって、本当に重要なロータリーの心なのです。

では彼の言う寛容の精神はどういうものなのでしょうか。彼が育ったバーモント州のウォーリングフォードの人々は、宗教的にまた政治的に、寛容であったと彼は言います。英国から宗教上の迫害を受け、米国に苦労して移り住んだ清教徒の子孫です。おそらく、そこから寛容の精神が出てきたのでしょう。

ロータリアンは皆が友達になり平和に暮らすことを望んでいます。どうしたらそういう状態が来るのか、彼は政治的に宗教的に寛容であることが何よりも重要だと考えていました。ロ

ータリー創立75周年記念の一般人向けのラジオのスピーチで「もし信仰が違う人々、様々な宗教を信じている人々がロータリーで、同じテーブルにつくことができたら、どんなにすばらしいことだろう」と述べています。

彼の考える寛容は、そういう人間社会の基本にかかわることであり、平和への道なのです。

彼は人を非難する言動ができるだけ避けたと、自分で言っています。

ロータリーが大発展したベースに寛容の精神があり、それはまたロータリーにとって間違いく大切のことだと思います。

「私自身、多様性を認め、寛容の精神を実践できたか」大いに反省させられる一文でした。

●会員記念日

※ ご入会記念月おめでとうございます。

(5名)

浜井君 (S 58年) 上野君 (H 5年)

古屋君 (H 5年) 梅田君 (H 7年)

金本君 (H 7年)

※ 創業月おめでとうございます。

(6名)

堀江君 株クリエイト建築設計

金本君 金本公認会計士事務所

三浦君 株ミウラ 園尾君 戸田工業株

梶本君 梶本産業株 山下君 株広島銀行

●スマイルボックス SAA 羽井委員

○今日は何の日

11月22日は「いい(11)ふうふ(22)」の語呂合せと、11月の「ゆとり創造月間」の期間中であることから、余暇開発センター（現在の日本生産性本部余暇創研）が1988（昭和63）年に「いい夫婦の日」に制定しました。

過去はどうあれ、現在は夫婦円満だと自称される会員はどうぞご出宝下さい。

○紫友会11月例会

優勝とシニア優勝の村上さんはトリプル

2位の諫訪昭浩さんはシングル

3位とベスグロの上田さんはダブル

ブービーの新本さんはシングルをご出宝下さい。

● 例会料理メニュー



本日は100万ドルの食事です。

■ 新会員卓話

墓を考える

宇野 誠 君



9月に入会させて頂きました宇野誠と申します。どうぞ宜しくお願い致します。出身は熊本市です。本日は「墓を考える」と題してお話をさせて頂きますが、大した内容ではございませんので、気軽にお聞き頂ければ幸いです。

既に他界しました私の父方の祖父が、先祖や一族を大切にしていて、昔の色々な記録をマメに纏めておりました。中でも先祖を祀る墓を非常に大切にしていたようです。墓は熊本市近郊の山道の脇にあり、祖父の時代に祖母側の墓を合併しております。祖父は「墓所整理誌」と称する記録を作成し、合併の理由、先祖に関する調査、関係各所との調整や旧墓の掘起し作業等の苦労話を克明に記しており、これを読んだ人は結構驚きます。

このように祖父の苦労が詰まっている墓ですが、宇野家におきましても少子化や男子の減少が進み、今後この墓を守って行く者は私と私の息子のみという状態です。しかも息子は将来海外で仕事をしたいと言っており、そうなれば墓守が私で途絶えることになります。

近頃は寺院等で永代供養される例も増えていると聞きますが、先の墓所整理誌の最後に結びとして、「以上の経緯を子孫に伝え、子孫がこの趣旨を厳守して誤らぬことを祈念し自ら執筆しタイプする」と明記されております。祖父の思いをどう継いで行くべきか、悩んでいる次第です。個人的な話で大変失礼致しました。

以上



● 卓話予告

日 時	テ　一　マ
12/4(木)	「広島の車窓から Part 2」 梶 会員

